

週報 みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

漁業経営セーフティーネット構築事業 平成 26 年度申込はお急ぎください！

漁業経営セーフティーネット構築事業の平成 26 年度新規申込みと、継続加入者の数量設定申込みの締め切りが迫っている。

同事業は、燃油と配合飼料の価格高騰に備え、国と漁業者とがあらかじめ積み立てを行い、価格が一定の基準を超えた場合に、積立の範囲内で補てん金が交付されるもの。

補てん金交付の判定は四半期毎に行われるが、平成 25 年度は、燃油・配合飼料ともに、第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期と補てんの発動が続いている (第 4 四半期の判定は 4 月以降)。

平成 26 年度においては、期中の加入・積み増し等が出来ないため、今回の締め切りを逃すと、平成 27 年度まで加入することが出来ない。

申込みの締め切りは、今月 24 日。是非この機会に事業の活用をご検討ください。

↓ 申込み方法などの詳細は、下記まで ↓

○問合せ先

三重漁連指導部 (担当：堤)

TEL : 059-228-1205

漁村の魅力活用！シンポジウム —3 月 14 日 (金) 東京—



14 日、漁村の魅力活用！シンポジウム in 東京が開催された。

このシンポジウムは、漁業・漁村の振興に関わる人々を対象に、今後の取り組みに役立つ情報やノウハウを発信・周知することを目的として開かれたもので、全国から約 60 名が参加した。

当日は、先進地の取り組み紹介として、富山県とやま市漁業協同組合より、「シロエビの高付加価値化」、山口県萩市より「道の駅/萩シーマーと経営と地先の水産物のブランド化」、北海道函館がごめ連合より、「がごめ昆布のブランド化等、異業種連携によるクラスター型 6 次産業化の展開」が紹介され、参加者らは積極的に意見交換をした。

そのほか、市場流通の変化と商品のトレンドに関する講演や、国の施策の最新動向の紹介、水産物の商品開発に取り組む地域・団体による試食展示が行われた。

漁業・養殖業 漁場環境保全研修会
－3 月 18 日(水)東京－

全国漁場環境保全対策協議会と全国漁連海面魚類養殖業対策協議会の主催により、18日、2013年度漁業・養殖業漁場環境保全研修会が開催された。

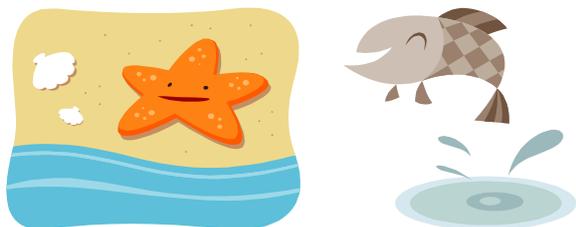
この研修会は、漁場環境の保全と安全な食品の生産・供給等について啓発・普及することを目的として毎年開催されている。

本年度は、平成26年度漁場環境保全及び被害対策関係予算の概要について説明されたのち、海洋再生可能エネルギーの利用促進のあり方について講演があった。

また、福島第一原子力発電所の事故による放射性物質流出等が水産物の安全性に与える影響を調査する「水産物における放射能調査事業」については、検体を受け取り、分析結果が出るまでの工程を細かく取り上げた説明があった。

そのほか、養魚飼料に含有されるカビ毒、アフラトキシンの魚類への移行・残留についての講演があり、参加者は熱心にメモを取っていた。

最後に、東日本大震災による東北地方沿岸浅海域の漁業資源および養殖場環境への影響と回復状況についての報告がなされた。



みえフードイノベーションシンポジウム
－3 月 17 日(月)アスト津－

三重県は、生産者・事業者・大学・行政などが連携し、県内の農林水産資源を活用した商品やサービスを開発する取り組み「みえフードイノベーション」を実施しているが、会員による新たな連携の促進と、ネットワーク活動の拡充のため、17日、みえフードイノベーションシンポジウムを開催した。

プログラムは、第1部：講演会、第2部：事例報告会、第3部：交流会で構成され、事例報告会では、水産物の分野から、超微細氷ナノアイスを活用した物流システム「水産物流通プロジェクト」について合同会社チーム錦より、鳥羽市浦村での「ケアシェルを使った垂下式アサリ養殖の仕組み」について、水産総合研究センター増養殖研究所より報告された。

【主な予定】

◎3/22

三重漁民の森造成事業（津市）

◎3/25

三重県漁協女性部連合会役員会

（津市）

◎3/26

黒のり8回汐（松阪市）

第36回全国海の子絵画展表彰式

（東京）

◎3/29

錦ぶりまつり（大紀町）

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。